

大人のチカラ

19

～子どもたちの未来のために～

読書で深める家族の絆①

読書を共有し「楽しむ」ことが大切

子 どもの読書離れがいわれて久しい昨今。それには家庭での習慣も影響しています。家族で読書体験を共有することは、会話を楽しむことにもつながっていきます。季節は「読書の秋」。家族で読書を楽しむひとときを過しませんか？

遊びのひとつとして家族で楽しもう

「子どもにとって読書は、スポーツやゲームなど数ある遊びのひとつ。他の遊び同様、家族で楽しむもの」

にしませんか？」と提案するのは、香川県立図書館児童資料担当の藤原庸子さん。家族そろって読書をしたり、感想を語り合う「家族読書」をすることで、会話が弾み、家族のコミュニケーション

が深まります。

現在、県下の多くの市町で0歳児健診時に絵本を手渡す「ブックスタート」が行われています。赤ちゃんの頃から、絵本を介した楽しいひとときを家族でわちあいましょう。

とっても新鮮 パパの読み聞かせ

家族読書の入り口におすすめるのは「読み聞かせ」です。うまく読もうと気負わず、気楽に読んであげましょう。聞きなれた身近な人の声で語られる物語は、子どもにはとても心地よいものです。また、同じ本でも読み手が変わるとその印象は全く異なります。お父

さんやおじいちゃんの読み聞かせは子どもたちには新鮮に映ります。

子どもが文字を読めるようになると、親は「自分で読みなさい」と言ってしまうがちですが、自分ひとりの黙読と誰かが読んでくれるのでは、感じ方が異なることも。会話の多い本なら、役割を決めて読むと盛りあがります。

気をつけたいのが「読後にテストをしない」こと。「桃太郎のお供は誰だった？」「君だったらどうする？」など、何か質問されるとしたら、気が重くなっ

て当然です。「大人が知識を得るために本を読むのと同じ、子どもはまずは楽しむことが一番。楽しい体験を少しずつ積み重ねることで、自分から進んで本を読むようになっていきます」と藤原さん。また、家族で読書を楽しんだ経験そのものが子どもの心を豊かにします。

